

第2回 湖西市ゼロカーボンシティ推進協議会 会議録（要旨）

開催日時	令和5年6月9日(木)15:00~17:30
開催場所	健康福祉センター「おぼと」
出席者	(委員) 20名 (オブザーバー) 5名 (事務局) 6名 (受注者) 3名
内 容	
1 開会	事務局 司会あいさつ、出席状況の確認、資料確認
2 環境部長あいさつ	
3 会長あいさつ	
4 議題	<p>(1) 地域の将来ビジョンや目標達成に向けた施策について</p> <p>湖西市において、2024年2月末までに「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の策定を予定している。本協議会は、令和5年度においては計画の策定、計画策定後の令和6年度においては策定した計画の実施状況の確認や進捗管理などの計画の実施に関し必要な協議を行うため、委員の皆様には様々な角度からご意見をいただきたく設置した。</p> <p>配布資料「湖西市ゼロカーボンシティ推進協議会 第2回協議会資料」について事務局より説明を実施。</p> <p>(2) 意見交換</p> <p>遠 藤：カーボンニュートラルの取組については、啓蒙活動と実態を測ること・減らすことが挙げられる。</p> <p>金融機関として、参加者の負担がない程度で、啓蒙活動を継続的に提供している。</p> <p>実態を測ることでは、排出量を測る部分のご支援といった融資や補助金、第三者機関がカーボンニュートラルの取組を評価し、金融面の条件を優遇するような枠組みで、取り組もうとする方の負担を軽減できないかと考えている。</p> <p>減らすこと以外に、排出量を吸収するところで何かできないかと考えている。湖西市は森林面積が1850haで、吸収量のポテンシャルが2000~9000t-CO2と見積もられていて、クレジット取引といった吸収源を事業者配布するような形で、排出と吸収を組み合わる形で目指せるのではないかと考えている。</p> <p>耳 塚：事業者も個人も、インフレの影響でカーボンニュートラルどころではなく、節電・省エネとなっている。電気の消費量を減らすことで、カーボンニュートラルにつながる方向に持っていくことが重要。</p> <p>市民の意識と理解が大事で、第2回協議会資料11ページのオール湖西に関して、市民のところをまず取り掛かるべきであると考えている。</p> <p>お金と時間のかかる太陽光等の各種整備を始めるのに加え、市民への啓発をすることで意識が変わって、湖西市が環境に対して意識が高いと思うようになり、市民レベルでゼロカーボンシティに対して意識が向上する、このような流れが必要になると考えている。</p>

丸 山：スピード感をもって実施すること、市内自治体の持っている固有の課題や方向性と地域特有の特性・特色、ポテンシャルを生かした取組が、より効果的ではないかと考えている。浜名湖からの風や農業が盛んというような湖西市の特性を活用することで、風力発電やバイオマスによる発電なども有効施策になると思っている。各方面から活かせるものを活かしてまとめればと思っている。

瀧 本：すぐに手を付けられるものと時間がかかるものがあるので、それぞれの施策にスケジュール感が欲しいと考えている。
太陽光の導入が進むことによる調整やオフグリッド、出力抑制も踏まえ、蓄電池の設置を合わせて検討した方が良いと考えている。

榊 原：先週の大雨や昨年9月の台風15号の影響でタクシー車両に甚大な被害が出た。ユニバーサルデザインの床が低いハイブリッド車ではバッテリーが床下に収納されており、多少の浸水でも動けなくなってしまった。
公共交通の利用促進は、湖西市事業主体の乗り合い型デマンドタクシーの委託を受けている。バスもあるが、時間と場所が決まっているところが高齢者には負担であり、家の前から目的地まで行き、また同じ移動ニーズの方を乗り合わせる形式で運行している。元々、利便性向上のための取組であったが、結果として環境負荷軽減の観点でもアピールできたと思っている。

北 谷：農地への太陽光パネルの導入によるソーラーシェアリングについて、育てているものの多くが陽生植物であり、この上に付けてしまうと生産量が落ちることもあるため、導入は難しいと認識している。また、肥料と燃料の高騰で、そこまで踏み込める状況ではないと考えている。
湖西市における昼夜間の人口が約2万人違うことや朝夕の渋滞、自動車の排出ガス問題があるが、市が訴えている職住近接で改善できるようなら有効だと考えている。

渥美敏：漁協としてできることはあまり無いが、ブルーカーボンの話で植物プランクトンや藻類がCO₂を吸収することで、物質循環や最終的な人間による利用を含めうまく回っていたが、最近はバランスが崩れている。温暖化などと言われているが浜名湖でもアマモが枯れる、アサリが減っていることもあって、魚や貝、植物などの生育環境を維持するようにできることをやっていく。
漁協に洋上風力発電の会社が設置の陳情に来ることもあるが、なかなか相容れない部分があってお断りしている状況。浜名湖のアサリの復活のために何ができるのか、プラスの効果を常に探るのは地域としてやるべきことと考える。

二 橋：第2回協議会資料10ページについて、自動車のエネルギー高騰もあって職務事業者等改善は難しい。ゼロカーボンシティ推進に向けて、行政自治体等の補助金や金融施策を会員事業者へPRして行きたいと考えている。

渥美博：同じく施策を周知・指導していくことを考えている。
省エネに関するセミナーが好評であったこともあり、第2回協議会資料14ページ「環境教育イベントの開催」のところで啓蒙・啓発する手伝いがで

できればと考えている。

前回の時にできることからやろうという話で、近くの事業所の社長さんとの車の乗り合わせや階段で昇ること、そういった意識をどのくらいの人が同じように共有するかが大切だと思っていて、引き続きやっていきたいと考えている。

光 原：目標達成に向けた取組項目と具体的な内容を取り上げた中で、もう少し踏み込んで何をやるのかを検討した方が良いと考えている。

他の自治体の事業と比べて、湖西市のデマンドがどうなっていくかを、季節の変動や日中の変動等を解析することで、違う方法についても議論できると思っている。

企業の省エネ活動については現場の改善、省エネ機器の導入、再エネ・CO₂ゼロエネルギーの使用という段階に分け、経済性に応じて検討する活動をしている。

川 島：ワンストップ相談窓口や各種検査等の普及啓発を中心に活動している。企業が資材価格・エネルギー価格の高騰や人手不足の中で、脱炭素の優先度が低いということを伺っている。セミナーも脱炭素から省エネに切り口を変えて、省エネと脱炭素が繋がっているという形で行っている。

施策に対する意見として、定量的な部分と時間軸の設定が無いいため、短中長期に決めて目標を明確にし、各項目で優先順位を付けて取り組むことが効果的と考えている。

川 上：優先度の高い項目やスケジュール感・効果を定量的に測れるのであれば、効果を目標設定の中で定めることで、後で振り返った時に足りなかったことやどんなことが必要かといったところを年度ごとに見直すことができると思っている。

原 田：人手不足・求人難で産業用のロボットや省エネ設備を導入するということになった場合、以前使っていたエネルギーより多くなってしまうところで困っている。

工場の老朽化もあって太陽光パネルを屋根に設置することができないが、やれることはやっていきたいと思っている。省エネ診断についても多くの項目にチャレンジして行きたいと思っている。

将来的に工場や省エネの在り方を管理した中で、工場運営にあたっていきたいと考えている。

佐原司：着手しやすく効果の大きい省エネに取り組んでいる。電気の他に、燃料についてもわかりやすく啓発することを考えていきたい。

協議会資料で、専門用語・略称(アルファベット)が多く、市民に対してはもっとわかりやすいように用語集やコメントを別紙等でわかるようにしていただきたい。

ガソリンの他に服やタイヤ、アスファルトも原油から生成する段階でできたものを使用するが、ゼロカーボンということで原油を使わなくなったら良いことばかりでもないと考えている。この点についてご回答いただきたい。

滝 川：原油の使用に関しては、燃やしたものがCO₂として大気中に出ていくもの

が問題になっている。固定されているものは地球温暖化に対して無害である。原油の中で化学合成になるもの、最終的に電気になるものもある。アスファルトは最近原油を使わず別のものから作られている。将来はそういう問題がないように科学技術が進歩すると思っている。

佐原司：燃料を使って走るものの消費量が減ることで副次的に出てくるものを今使っているものがたくさんあって、それらが滞ってしまうことはないかと心配していた。

化石燃料を燃やしたその場で CO2 を外に排出しないような開発はできないのか。

滝川：燃やして出てきたものを回収することはできない。実際は既に出ているものを回収するか固定する手法がある。

板倉：市民が一番できることは省エネで端的に電気を使わないこと、化石燃料を使わない電気を使うことと思っている。

またごみの減量について、燃やすごみの 8 割が水と言われ、水を絞ることで燃料・CO2 が減ると思っている。ごみの分別とごみの水を切る、使えるものを捨てないことをやっていきたい。

省エネ・再エネについては可能な範囲で取り組んでいきたいと思っている。

大倉：電動自転車等の生活圏内に合わせた乗り物や、住宅とその住みやすさに対する補助・制度があると良いと思っている。

湖西市が広報や SNS で頑張っていることを知っている人もいれば、知らない人もいる。「環境教育イベントの開催」についても、色んな所にうねりを持っていくことで、知っている人を増やすことになるとしている。第 2 回協議会資料 14 ページの「環境リーダーの育成」については、防災リーダーと兼ねたらどうかと思っている。多様な市民にも当事者意識を持ってもらうために、組分けをした方が良いのではないかとしている。

木本：高校生の立場でも省エネ・節水節電に対して意識を持っている人が増えてきているので、もっと意識を高めていってゼロカーボンに協力できるような人が増えればと思っている。

塩沢：授業でも温暖化について学んでいて、地球温暖化の仕組みや解決策を自分たちで調べている。これからの小学生・中学生も、地球温暖化について考えるべきだと思っている。できることをやっていくことが大切だと思っている。

ルガ：ゼロカーボンの意識が高まり、パリ協定と湖西市の動きが関連していることを理解した。高校生として取り組むことのできそうなことは、省エネの啓発と自然環境保全への取組であると考えている。その中で、ブルーカーボンの 1 つであるアマモ場に注目している。

石原：アマモ場の育成と保全は高校生では困難であると考え、アマモ場の啓発活

動に注目してみた。アマモ場のブルーカーボンとしての役割について関係者から聞き取りを行い、得た情報を広め啓発したいと考え、学内だけでなく、湖西市の地域イベント等でも啓発できないか考えている。漁協の渥美様からも教えていただきたい。

渥美敏：アマモについてはあまりよく知らないので、詳しい方を紹介させていただく。相談等、できることなら、ぜひ協力させていただきたいと考えている。

桐 生：第2回協議会資料11ページの先行地域や重点事業について、優先順位の高いところから合うかどうか、湖西市と議論させていただければと考えている。

7 閉 会

(別紙) 湖西市ゼロカーボンシティ推進協議会 委員名簿

業種	所属等	職名	氏名	出欠
教育・学術機関	豊橋技術科学大学	副学長 電気・電子情報工学系 教授	滝川 浩史	○
金融	静岡銀行	湖西支店・新居支店長	遠藤 威	○
	遠州信用金庫	湖西支店長	耳塚 和也	○
電力	中部電力株式会社	事業創造本部部長（事業推進担当）	丸山 忠宏	○
ガス	サーラエナジー株式会社	カーボンニュートラル推進部長	瀧本 修	○
公共交通機関 (鉄道・バス・タクシー)	遠鉄タクシー株式会社	常務取締役運行営業部長	榊原 正之	○
農業・ 漁業協同組合	とぴあ浜松農業協同組合	湖西地区支店地区統括部長	北谷 英久	○
	浜名漁業協同組合	代表理事組合長	渥美 敏	○
商工会	湖西市商工会	事務局長代理	二橋 和久	○
	新居町商工会	事務局長	渥美 博之	○
市内事業者 (製造業・物流業)	プライムアースE Vエナジー株式会社	経営戦略室 主査 兼 SDGs 企画推進グループ長	光原 好人	○
	有限会社浜名樹研	代表取締役社長	佐原 克哉	○
	株式会社新光製作所	代表取締役社長	原田 高久	○
	株式会社笠子流通	代表取締役社長	佐原 司郎	○
地域住民	市民代表	湖西市自治会連合会会長	板倉 福男	○
	消費者代表	特定非営利活動法人 ママライフバランス 副理事	大倉 昌子	○
	湖西高校	新3年生 新2年生	木本 和輝 塩澤 陽斗	○
	新居高校	新2年生 新2年生	ルガ クラレンス 石原 碧	○
オブザーバー				
静岡県	企業脱炭素化支援センター	イノベーション推進部	川島 一貴	○
	地球温暖化防止活動推進センター	ゼネラルマネージャー	服部 乃利子	○
環境省	関東地方環境事務所	地域脱炭素創生室長	増田 大美	○
財務省	東海財務局静岡財務事務所	総務課長	川上 正人	○
湖西市環境審議会	湖西市環境審議会 静岡県環境資源協会	湖西市環境審議会会長 静岡県環境資源協会 専務理事	平井 一之	○